

笑顔かがやく光っ子

みんなで育てる光っ子

学校便り

第381号
平成30年3月1日

練馬区立光が丘第八小学校
校長 鈴木 隆志

計画・実施・評価・改善

校長 鈴木 隆志

先月下旬頃から、わかば学級の教室前にあるコブシの木の花のつぼみが膨らみ始め、春の訪れを告げています。「練馬区の木」にも制定されているコブシの木ですが、実は、この木は、光八小にとって、とても大切な木なのです。平成元年4月1日、本校は開校しました。開校記念植樹として植えられたのが、このコブシの木なのです。開校から30年近く、コブシの花は、毎年新しい春を迎え、ずっとずっと、光八小と光っ子たちを見守り続けてきたのです。今年も満開のコブシの白い花が、光っ子たちの笑顔をやさしく包んでくれることでしょう。

2019年の春には、開校30周年記念式典・祝賀会を行う予定です。光八小の大きな節目を迎える準備に取りかかる今年です。また、2020年度からは新しい小学校学習指導要領の全面実施となります。2018年度からの道徳教科化に始まり、2020年度には5・6年生の英語教科化、3・4年生の外国語活動が始まります。学びの質を高めるため、学力の3要素と評価の3観点も新たに示されました。新たな教育に対応した準備も進めていく今年です。学校では今、一年間の教育活動を振り返り、成果や問題点を明らかにし、新年度に向けての計画づくりを進めているところです。つまり、「計画(Plan)、実施(Do)、評価・点検(Check)、改善・行動(Action)」という教育の効果を上げるための一連の流れの中でいうと評価・改善という段階になります。

教員は、教育目標、教育活動の重点、教科・道徳・総合的な学習の時間の指導や評価、生活指導、特別活動、特色ある教育活動、特別支援教育、校内研究、家庭や地域社会との連携等、多くの項目にわたって一つ一つ点検し、問題点を取り上げ、改善策を話し合っています。その際には、易きに流れたり、現状維持になったりすることなく、常に子供たちにとってどうなのかというフィルターにかけ、一歩でも質の高い教育を目指すことを念頭に置いています。

本年度も保護者の皆様には「光八小の教育についてのアンケート」に御協力をいただきました。この結果をまとめたものを、学校便り本号でお知らせいたします。

ここでは、保護者の皆様によるアンケートについて、簡単に触れさせていただきます。保護者の皆様には、18項目について、A(大いにそう思う)、B(そう思う)、C(あまりそう思わない)、D(そう思わない)という4段階で評価をしていただきました。項目によって違いはありますが、全ての項目のA、B、C、Dの平均は、Aは31%、Bは50%、Cは11%、Dは4%、分からないは4%という結果で、10人に1.5人はCかDということになります。また、18項目中、5項目で合格点とするA+Bが80%を割りました。教員としては努力をしているつもりでも保護者の皆様には、それが十分に伝わっていないということがあり、今後、もっと、もっと努力し、納得していただけるような教育を進めていかなければならないことを実感しました。評価を改善に生かし、新たな計画を立案していきます。今後とも、どうぞよろしく願いいたします。